

REPORT

土壌生物・土壌構造 調査レポート



みんな大地

Powered by UPDATER, INC.

1. 調査概要

案件名	uramichi FARMの土壌生物、土壌構造調査
調査期間	2026年4月16日
調査監修	アグロエコロジー金子ラボ（金子信博先生）
調査者	株式会社UPDATER（みんな大地）
調査目的	・ ミミズや節足動物などの土壌動物を確認することで、営農の取り組みが土壌に与える影響を「見える化」する
調査対象地	圃場1（長ネギ横の畝間）、圃場3（里芋の畝間、駐車スペース緑地）、圃場6（エディブルフラワー横）
調査方法	・ ハンドソーティングによる土壌生物調査 ・ Slakesによる団粒指標計測

圃場番号1
長ネギ横の畝間圃場番号3
里芋の畝間圃場番号3
駐車スペース緑地圃場番号6
エディブルフラワー横

2. 土壌生物調査データ

圃場番号	場所	生物種別											出現群数	個体数合計
		植食性					腐食性			寄生性	捕食性	雑食性		
		甲虫幼虫	コガネムシ幼虫	ゴミムシ	コメツキムシ	陸貝	ダンゴムシ	ヒメミミズ	フトミミズ	センチュウ	クモ	アリ		
1	長ネギ横の畝間			1				1					2	2
3	里芋の畝間							1					1	1
	駐車スペース緑地	2	5	1	2				6			2	6	18
6	エディブルフラワー横	6				2	10	9	15	1	1	20	8	72



圃場番号 1
長ネギ横の畝間

圃場番号 3
里芋の畝間

圃場番号 3
駐車スペース緑地

圃場番号 6
エディブルフラワー横

調査地点によって、土壌生物の個体数および多様性に大きな違いが見られました。

最も生物性が豊かだったのは圃場6（エディブルフラワー横）で、出現群数8群、個体数72匹と突出しています。フトミミズやヒメミミズ、ダンゴムシといった「腐食性（有機物を分解する）」の生き物が多く確認されており、落ち葉や有機物の分解が活発に行われている良好な土壌環境であることがうかがえます。

次いで、圃場3（駐車スペース緑地）でもコガネムシの幼虫やフトミミズなど18個体が確認されました。

一方で、実際に作物を栽培している圃場1（長ネギ横の畝間）や圃場3（里芋の畝間）では、確認された個体が1～2匹にとどまりました。これは、耕起や除草などの定期的な営農活動が、土壌動物の生息環境に影響を与えている可能性を示唆しています。

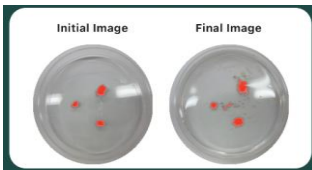
全体的な傾向として、クモやゴミムシなどの「捕食性」の生き物が非常に少ない環境となっています（一部の甲虫幼虫に捕食性が含まれる可能性はあります）。なお、圃場6で確認された緑色のミミズはフトミミズ科のクソミミズである可能性が高く、良好な土づくりに貢献していると考えられます。

3. 土壌構造データ

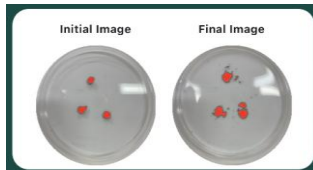
圃場番号	場所	検体番号	団粒指標
			Slakes*
1	長ネギ横の畝間	1	0.66
		2	0.66
3	里芋の畝間	3	0.50
		4	0.52
	駐車スペース緑地	5	0.71
		6	0.44
6	エディブルフラワー横	7	0.53
		8	0.72

*最高1～最低0

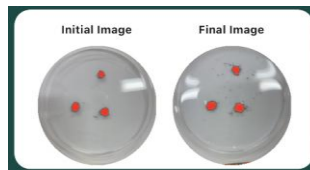
検体番号 1



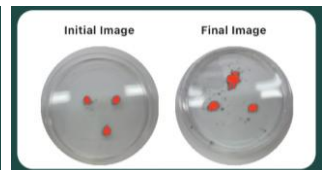
検体番号 3



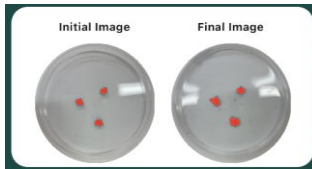
検体番号 5



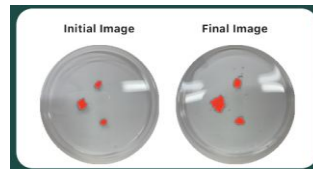
検体番号 7



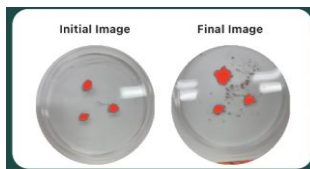
検体番号 2



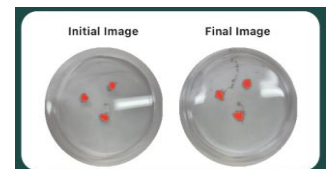
検体番号 4



検体番号 6



検体番号 8



圃場番号 1
長ネギ横の畝間

圃場番号 3
里芋の畝間

圃場番号 3
駐車スペース緑地

圃場番号 6
エディブルフラワー横

Slakesアプリによる団粒指標（最高1～最低0。1に近いほど水に浸しても崩れにくく、団粒構造が発達していることを示す）を計測した結果、全体的に「0.44～0.72」の範囲に収まり、各圃場で一定の団粒構造が形成されていることが確認できました。

生物が最も多かった圃場6（エディブルフラワー横）は最高値0.72、次いで圃場3（駐車スペース緑地）は最高値0.71と高い数値を記録しており、ミミズなどの多様な土壌生物の活動（物理的な攪拌や糞の排泄）が、団粒構造の発達に大きく寄与していると推察されます。

一方で、圃場3（里芋の畝間）は「0.50～0.52」と相対的に低い数値となりました。今後は、こうした畝間などにおいて草生栽培や有機物マルチなどを取り入れることで、生物多様性を高めつつ、さらなる団粒化（土の物理性向上）を促していく余地があると言えます。

以上

みんな大地

緑豊かな大地は、地球とみんなを元気にする。

「土壌」は1兆5000億トンの炭素を貯留する重要なCO2吸収源であり、多様な微生物を育み、地上の豊かな生物を支える役割を果たしています。

「みんな大地」は、土壌診断サービスによる「土壌の見える化」を行い、土壌再生による地球温暖化防止効果と農業生産性向上をめざしています。

公式WEBサイト
はこちら▼

